

第 2 回推進会議における主な提出意見等への対応について

1 青森県看護師等サポートプログラムの見直しについて

委員名	ページ	意見等の内容	回答
角濱委員 桺谷委員	3	専門看護師の支援については、認定看護師、特定看護師及び助産師への支援をしてから検討するとのことであるが、専門看護師についても支援の方針を打ち出せないものか。御検討をいただきたい。	少子高齢化がますます進展する中、増大し、多様化する看護ニーズに対応していくため、専門性の高い看護師（認定看護師、特定行為研修修了者、専門看護師等）の活用が重要と考えます。 専門看護師への支援については、特定行為研修修了者数や認定看護師数の目標達成状況等を踏まえ、次のステップとして検討していきたいと考えています。
桺谷委員	3	サポートプログラムの色、背景が見にくいので、もう少し見やすくしてほしい。	色・背景を修正しました。
桺谷委員	3	キャリアパスの「～中高生」の部分は、「こども～中高生」などにすればイメージしやすいのでは。	「未就学児～中高生」に修正しました。
桺谷委員	3	「結婚・出産・子育て」や「離職・潜在看護職員」との表現は、独身者もいるので、キャリアパスには馴染まない。 「キャリア形成」などに変えることも可能では。	「キャリア形成」に修正しました。
桺谷委員	3	看護職員の下に、新人・中堅・ベテランとあるが、今は「ベテラン」という表現はしない。 「ジェネラリスト」、「スペシャリスト」などの方が時代に合っている。	「ジェネラリスト・スペシャリスト」に修正しました。
桺谷委員	3	「1 看護師等の確保」の看護職員の欄に、プラチナナースに関する施策を入れてほしい。潜在＝プラチナではない。プラチナをいかに確保するかが大事。	「プラチナナースの確保」を追記しました。
今委員	3	「2 キャリアアップ支援」の「助産師の活用推進」の関係機関に助産師会が入っていないため、入れるべきでは。	「県助産師会」を追記しました。
今委員	4	特定行為の研修機関が2つあるので、認定看護師の養成施設を0から1にすることを目標としてはどうか。	今回の調査において、養成施設の指定を受ける見込みのある施設がなかったことから、今回目標としては設定しませんが、認定看護師の養成は重要な課題であることから、引き続き検討を進めます。
棟方委員	4	達成目標の注釈に「最も高い水準を上回る数値」とあるが、離職率の目標については少なくすることなので、「より良い値」と標記してはどうか。	「最も高い水準よりさらに良好な数値」に修正しました。

2 青森県保健医療計画（看護職員確保対策）の見直しについて

委員名	ページ	意見等の内容	回答
榎谷委員	10	冒頭の文章について、新興感染症のことなどもあるもので、もう少し膨らませてほしい。	国の基本指針を踏まえ、新興感染症等に関する記述を追加しました。
榎谷委員	12	県内就職率が全国を大きく下回っているが、だからどうするかという記載が後ろの方にもほとんどない。どうするのかということを示してほしい。	「○確保に関する課題」の本文に、県内就職率の向上や県内就職者数の増加に関する記載を追加しました。
榎谷委員	13	有効求人数の4,821人は毎月のトータルを足した延べ数なので、「延べ数」と記載してほしい。	注釈に延べ数である旨を追記しました。
今委員	14	新人看護師の離職率が12.3%とのことだが、離職後にどこに再就職しているかが重要である。	いただいた御意見を踏まえ、離職後の就業状況について、どのような形で追跡することができるか検討していきます。
棟方委員	14	新人看護職員の退職理由はすごく重要なことなので、3つだけでなく、もっと記載すべき。	退職理由を追記しました。
角濱委員 榎谷委員	14	県外流出を防止するため、病院側と養成側の連携が大事。看護管理者と養成校の教員との情報交換会を3年続けて実施しているが、新たな提案や後押しをしてほしい。	病院側と養成側の情報交換会については、開催回数の増加や参加施設の拡大、WEB参加を含めた参加方法の見直しのほか、採用後の教育体制や学生から選ばれる病院等幅広く情報交換するなど、内容の充実に向けて検討していきます。
榎谷委員	20	目標の記載を膨らませてほしい。 「安心・安全な出産環境の整備」、「切れ目のない支援」などをしながら、「質の高い助産師の確保定着に向けて推進していく」などと記載してはどうか。	目標の記述を追加しました。